



## 実施概要

- 主催：内閣府 共催：広島県、広島市、安佐北区自主防災会連合会  
 協力：山崎製パン株式会社、大和重工株式会社、広島文教大学
- 日時
    - 1日目：令和5年6月17日（土）10：00～16：00
    - 2日目：令和5年6月18日（日）10：00～16：00
  - 会場
    - 広島市立落合小学校 体育館（広島県広島市安佐北区落合南2-13-1）

## 研修講師

- 辛嶋 友香里氏 ビースポート災害支援センター／現地コーディネーター
- 浦野 愛氏 レスキューストックヤード常務理事
- 山中 弓子氏 親子支援・災害看護支援 てとめっと／看護師



## 研修概要

### ① オンデマンド講座の受講

※令和4年度と同様の内容

|   |               |                                     |
|---|---------------|-------------------------------------|
| 1 | 人材育成の必要性      | 村上威夫氏（内閣府（防災担当）参事官）                 |
| 2 | 支援者としての心構え、姿勢 | 栗田暢之氏（JVOAD）                        |
| 3 | 災害「支援」の基礎知識   | 阪本真由美氏（兵庫県立大学大学院教授）                 |
| 4 | 避難所における基礎知識   | 辛嶋友香里氏（PBV）、<br>関真由美氏（日本赤十字社医療センター） |
| 5 | 被災者への配慮とニーズ対応 | 辛嶋友香里氏（PBV）                         |
| 6 | 避難所運営の知識とスキル① | 浦野愛氏（RSY）                           |
| 7 | 避難所運営の知識とスキル② | 浦野愛氏（RSY）、辛嶋友香里氏（PBV）               |
| 8 | 日常からの取り組みの重要性 | 三谷潤二郎氏（倉敷市）松岡武司氏（倉敷市社協）             |



### 3. 広島市モデル研修の実施報告について



#### 2 避難所運営演習の参加

※3日間プログラムを2日間プログラムに見直しをして実施。開催時間も10:00～16:00に短縮。

#### 1日目

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| (1) 開会等<br>10:00～10:30 (30)     | ○開会挨拶<br>○オリエンテーション<br>・研修実施の背景、期待される役割等  |
| (2) 講義1<br>10:30～10:50 (20)     | ○多様な被災者の理解とその配慮<br>・被災地・被災者への理解<br>・災害時における要配慮者の立場例   |
| (3) 演習1<br>10:50～12:00 (70)     | ○被災者の心情や状況の理解<br>・被災者の置かれている状況や心情、その背景を理解   |
| 12:00～13:00 (60)                | 休憩・昼食   |
| (4) 講義・演習2<br>13:00～15:40 (160) | ○講義：避難所の課題と生活環境の整備<br>・避難所に必要なスペースとその機能<br>・一日の流れ、活動内容、運営する上での留意点<br>・運営に関わる担い手の理解<br>○演習：避難所の課題と生活環境の整備<br>・避難所のスペースを再現し、各スペースの改善点を話し合い、具体的な改善作業を行い発表、解説 |
| (5) クロージング<br>15:40～16:00 (20)  | ・受講者同士のふりかえりとアンケート記入<br>・2日目のアナウンス、閉会挨拶   |

#### 2日目

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| (1) 講義・演習1<br>10:00～12:00 (120) | ○対人コミュニケーション（講義）<br>・避難所におけるコミュニケーションの目的、基本<br>○対人コミュニケーション（演習）<br>・「被災者役」「リーダー／サポーター役」「観察者役」の3つの役となり、コミュニケーションの仕方を体験。<br>・グループでの演習結果を全体で発表・共有 |
| 12:00～13:00 (60)                | 昼食・休憩  |
| (2) 講義・演習2<br>13:00～15:40 (160) | ○運営の担い手との連携・協働の必要性<br>・2日目午前中に検討したケースについて、「被災者と一緒に取り組めること」「被災者以外の運営の担い手と一緒に取組むこと」を話し合う<br>・グループで検討した内容を全体で発表・共有、解説                             |
| (3) クロージング<br>15:40～16:00 (20)  | ・講師からのコメント<br>・名簿登録・修了証について<br>・受講者同士のふりかえりとアンケート記入<br>・閉会挨拶   |





#### 受講者数

**受講者数** ※オブザーバー参加者含む  
(オブザーバー参加者除く数)

51名 (37名)

**修了者数**  
条件：1.5日以上参加

35名

**名簿登録者数**  
※名簿の登録に同意いただいた方

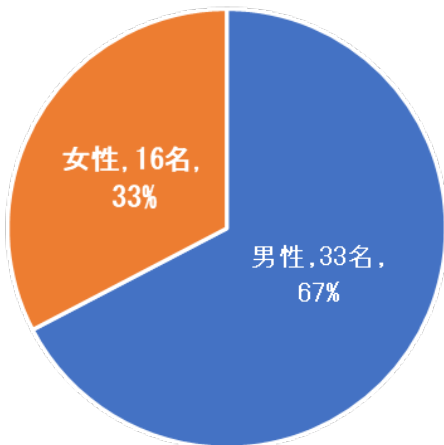
27名

※オブザーバー参加者：落合学区自主防災会（9名）、中学生防災士（5名）

オブザーバー参加者の他に、広島県、広島市、安佐北区の行政職員、安佐北消防、日本赤十字社（2名）等の関係者が参加

#### 男女比

※N=49  
オブザーバー参加者含む。不明の2名は含まない。

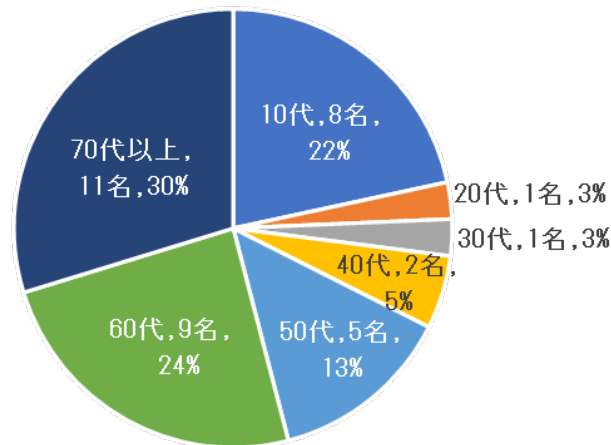


【男女比補足】

男性参加者が約7割を占める。女性3割の内、中学生、高校生がその半分を占める

#### 年齢層

※N=37  
オブザーバー参加者含む。不明の14名は含まない。

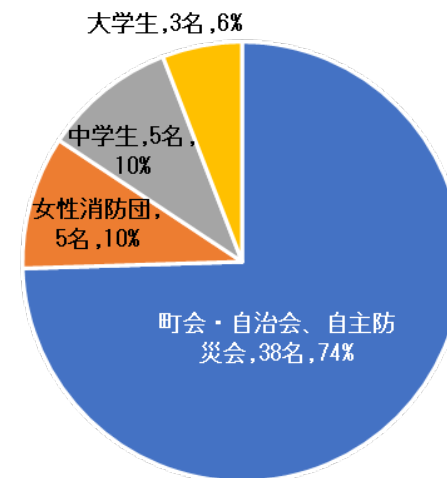


【年齢層補足】

全体の約5割が60代以上を占める。10代の8名の内訳は、中学生5名、大学生3名

#### 属性

※N=51 オブザーバー参加者含む



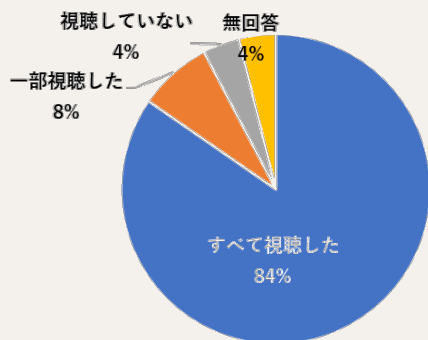
【属性補足】

自主防災会からの参加が約7割を占め、その他女性消防団、大学生、中学生の参加があった



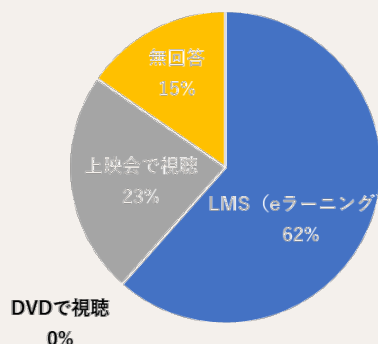
## オンデマンド講座・アンケート結果

### Q1 オンデマンド講座の受講状況についてお聞かせください



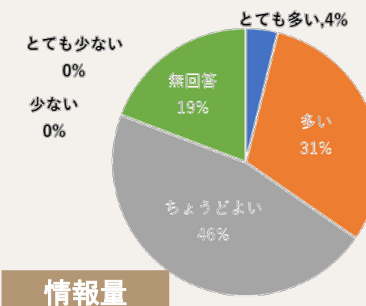
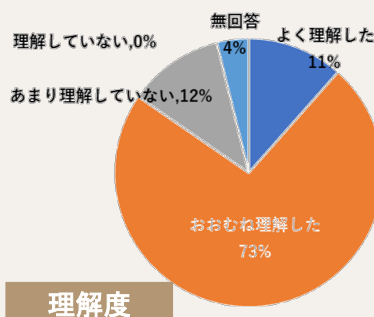
➡ 8割がすべて視聴したと回答。ほとんどの人が事前に視聴している

### Q2 オンデマンド講座の受講方法についてお聞かせください



➡ 6割がLMSで視聴したと回答。2割は区で行われた上映会にて視聴している

### Q3 オンデマンド講座の内容の理解度、情報量/長さについてお聞かせください



### Q4 オンデマンド講座の印象に残った内容をお聞かせください

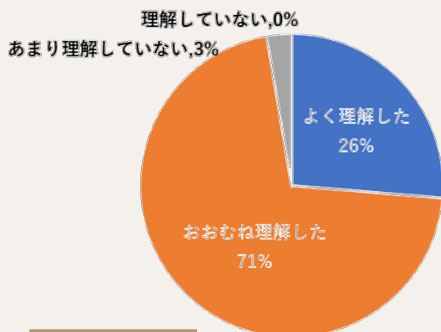
- 被災者に対する現実と対応の必要性を痛感した
- 避難所での生活の問題がテーマであり、災害に巻き込まれてケガをしないように身を守るためには日頃からのコミュニケーションが大切だということが印象に残った
- 避難所が「暮らしの場」となるため、避難所の環境を整えることが重要であるということが印象に残った
- 災害発生時の対応に公共機関等の公助の部分の重要性は大きいですが、各被災者の自助・共助の部分が多大であると感じた
- 日頃から防災活動に取り組む地域と、取り組んでいない地域では差があると感じた
- 避難所運営は入所だけではなく、退所後も何らかの支援が必要なことを学んだ。また、今回、様々な立場の方々と情報を共有し、交流を深めることができた
- 車イスの方が手伝って欲しいことを伝えたら、「ワガママ言うな」と言われたエピソードが印象に残った
- 避難所を出てからのサポートは難しいと感じた
- 災害支援の知識を深く学ぶことができた



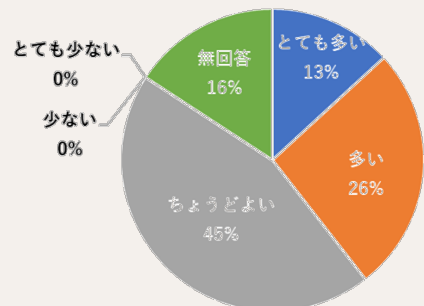


## 演習1日目・アンケート結果

**Q1** 1日目全体の内容の理解度、情報量についてお聞かせください

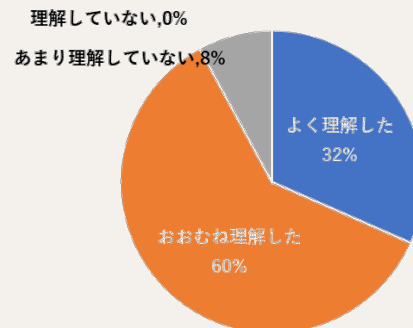


理解度



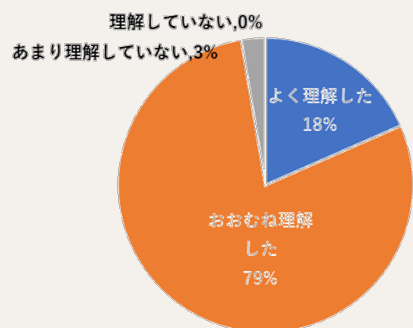
情報量

**Q3** 「演習1 被災者の心情や状況の理解」の満足度、印象に残ったことをお聞かせください



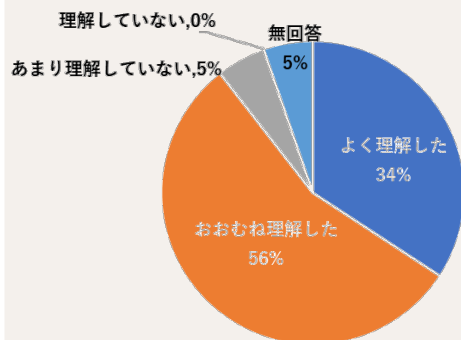
- 被災の心に寄り添い、一緒に考える
- 被災者の心情は少し理解できたが、高めるように努めたい
- 家族、家、色々心配事がある人ばかりなので、話を聞きながら一人ひとり対応したい
- 相手の立場に立って問題を考える重要性を学んだ
- 自分の母も足が悪く一人暮らしなので、色々考えた
- 演習では実際に自分で考え、表現することで内容が身についた

**Q2** 「講義1 多様な被災者の理解とその配慮」の満足度、印象に残ったことをお聞かせください



- 被災者の問題の聞き出し方が大事
- 自分で思っている事、気づいた事以上に避難者、被災者の方の思いは深いと感じた
- 様々な立場、状況の人が避難し生活するので、互いをリスペクトしなければうまくいかない
- 色々な方がいるので、決めつけずに寄り添う姿勢で接することを心掛ける
- 避難所のことなどいろいろ気づけないことが多く、学ぶことができて良かった
- 写真を見て避難者の方のリアルな生活にびっくりした

**Q4** 「講義・演習2 講義：避難所の課題と生活環境の整備」の満足度、印象に残ったことをお聞かせください

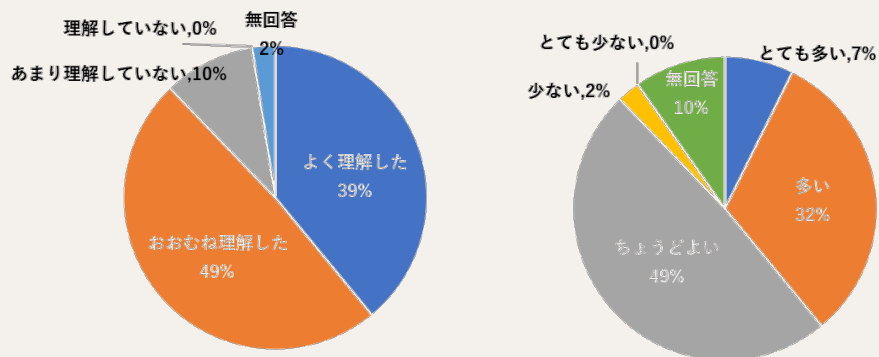


- 最初から閉所も考慮することが大事
- 主役は被災者ということ
- 臨機応変の対応が必要であると痛感
- 物資、受付など細かく分けて考えたことで、ちょっとしたことにも気づきやすく、避難生活をより良くするために色々工夫が必要だと感じた
- (情報コーナー) 伝えたい情報をわかりやすくして、運営者同士で確認することが必要だと思った
- “我が子”の心で課題を見つけ解決すること
- ゲーム式で楽しく勉強ができた
- 実際に改善に取り組めたのがよかった



## 演習2日目・アンケート結果

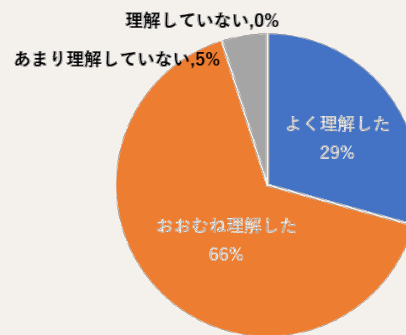
### Q1 2日目全体の内容の理解度、情報量についてお聞かせください



理解度

情報量

### Q3 「講義・演習2運営の担い手との連携・協働の必要性」の満足度、印象に残ったことをお聞かせください



- 我々中学生が、協働して避難所の若い世代のフォローしていきたい
- どのような困り事があるからどのように対応し、機関や施設につなげていけるかの事例をもとに考えられた
- 解決策があまりないときに頼れるということが分かった
- 課題を見つけ整備する状況では、相手に提案できれば良いと感じた
- 避難者に声をかける際は決めつけではなく、問いかけるスタンスが大切である

### Q4 2日間の研修全体を通して、より理解を深めたい内容やプログラムがあればお聞かせください。他感想など。

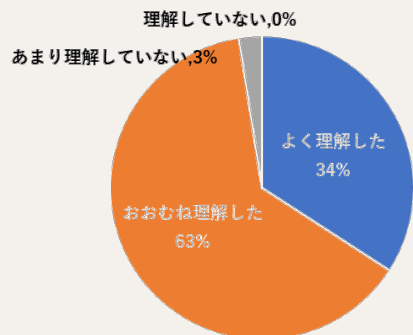
#### 深めたい内容

- コミュニケーションの上げ方、信頼度の上げ方
- 地域に外国の方がいる。日本語は片言。そういった方への支援、地域にあったサポートの仕方
- 中長期も勉強になるが、主に短期ばかりのため、そのあたり深めたい
- 自主防災のすそ野を広げていきたい
- 避難所の設営と運営についてもっと理解を深めたい
- 避難所内の各スペースの整備

#### 感想など

- 参加者同士のコミュニケーションは深くなったので良かった
- 災害の起こらない日頃の行政、地域の仲が必要だと思った
- グループによる集団での取り組みが良かった
- グループで活動するという事は、とても重要なのでチームの団結力がついてよかった。2日目の対人コミュニケーションのプログラムが良かった

### Q2 「講義・演習1 対人コミュニケーション」の満足度、印象に残ったことをお聞かせください



- 被災者側をしてどんな思いなのかを考えることができた
- その人のその時の心情等に応じて、話し方を変え、相手と仲良くなり、困りごとを聞き出し、それでも質問攻めをしないよう、嫌な雰囲気にならないことが難しいと分かった
- 相手に聞く内容や何から聞くかによって、対応も変わり、相手に寄り添って話をしないといけないので考えることが多くて難しかった
- 人により1つのことの捉え方が違うので、コミュニケーションの大切さを学んだ